東京都豊島区で発生した交通死傷事故に関連する注意喚起

2015年8月20日

日本てんかん学会理事長 大澤真木子
法的問題検討委員会委員長 川合 謙介

日本てんかん学会員各位およびてんかん診療を行う医師各位

8月16日に東京都豊島区東池袋において1の方が亡くなり、4の方が負傷されるという痛ましい交通事故が発生しました。ご遺族や関係者の方々の心中を察するに、その悲嘆や怒りはいかばかりかと言葉ありません。

報道によりますと、加害者（運転手）は医師でてんかんと診断されており、普段の発作状況、事故と発作の関連、事故前の服薬状況など詳しい事情は捜査中とのことです。したがって現時点では本件とてんかんの関連は確定されていませんが、本件を受けて、あらためて以下の点につきご周知をお願いいたします。

1. 診療では、自動車等の運転について適切な指導を行うこと
 - (1) 運転者本人の責任として「過労、病気、薬物の影響その他の理由により、正常な運転ができないおそれがある状態で運転してはいけない」ことが道路交通法で定められていることを説明する。
 - (2) てんかんの病態は多様であるため、てんかんのある人の運転適性は、過去の発作状況、医師の診断や警察の道路交通法運用基準によって個別に定められていることを説明し、運転適性のない場合には運転しないように指導する。
指導が受け入れられない場合は、医師による公安委員会への届け出があり得ることを説明する（注1）。
 - (3) 免許取得・更新時に正確に病状申告を行うことを指導する。
 - (4) 運転適性があっても、抗てんかん薬の飲み忘れ、睡眠不足、疲労蓄積時、発熱時など発作誘発要因が生じた場合には運転しないように指導する。
2. てんかん発作を抑制し、患者の生活の質を高めるよう、適切にてんかん診療を行うこと
 - (1) てんかん発作を含めた病状と、運転を含めた生活状況の正確な把握に努める。

(2) 生活の支障となるてんかん発作が消失していない場合には、抗てんかん薬の調整や外科治療の検討など発作消失へ向けた対策を講ずるよう努める。

以上

注1．警察の道路交通法運用基準や医師の届け出を行う場合の判断基準は、以下をご参照ください。http://square.umin.ac.jp/jes/images/jes-image/140910JES_GL.pdf